

失業外国人を支援

不況で仕事を失った外国人家庭の生活支援に取り組む市民グループ「エスペランサ」を一年半前に結成した小学校教諭青木幸枝さん(五〇)＝三重県鈴鹿市白子＝は「当分はやめられる状況



じゃない」と感じていて。外国人の雇用はなお不安定だ。親が解雇され

日々の食事にも不自由するなど、子どもにまで及ぶ窮状を見過ごせなかった。食料品の寄付を募って配り続け、これまでに延べ五百以上の家族を支援してきた。「多くの人が協力してくれた。さらにつなかりを広げていけたら」

金沢発の競技生む

ゲートボールとビリヤードを組み合わせた金沢発のニユースポーツ「グラウンドヤード」の生みの親。訪問看護ステーションを経営する木村啓治さん(五〇)＝金沢市南四十万＝は、大学で介



護福祉の講師をしていた約十年前、屋外でグラウンドゴルフを楽しむ高齢者を

見て思い立った。「冬でもできる屋内競技があれば」大学の退職金をコートづくりにつき込む熱の入れよう。競技人口はまだ約三百人だが、「やってみてみたい人はいるはず。地道に普及活動をしていきま

ゆうかんざろん



「技のかつこよさを追求するのが醍醐味」と話すのは、ウエイクスケーに熱中する会社員木村行正さん(三〇)＝愛知県美浜町北方。大分県であった九月のウエイクボード全日本選手権で、足とボードを固定しないウエイクスケー部門に初出場し、見事優勝した。友人の誘いで始めたのが八年前。地元の海や長

波乗り 世界に跳躍

良川の河口で練習、演技を撮影してもらい、コマ送りで動きのキレを確認する。

大会では、えい航する船がつくる波の内側から飛び上がり、空中で板を一八〇度回しながら外に出る「インアウト一八〇ショービット」や、波の上から飛んで板を回す「リップスライド二七〇ショービットアウト」などの技を成功させた。

今回の優勝で、来年八月に米国である世界大会に出場する。「今の技は国内では通用しても、レベルの高い海外では厳しい」と冷静に分析、新たな技の習得に励む日々だ。

旧トンネル群公開

「旧国鉄中央線に残るトンネル群は国内最大」と強調するのは、愛知県春日井市のNPO法人「愛岐トンネル群保存再生委員会」事務局長村上真善さん(五〇)＝名古屋守山区白山。今



春の調査で明治期の十三基を確認し、十一基の群馬県碓氷峠を上回ると発表した。

やぶの中のトンネル群を村上さんが見つけたのは四年前。有志で整備を進め、一般公開時には県内外の見学客でにぎわってきた。「周辺には珍しい植物や昆虫も豊富。観光スポットに育てたい」と夢を膨らませる。

名物大わら

滋賀県の湖東三山近江市の百済寺名物を地元老人クラブが新調し、奉納した。博司さん(七〇)は「寺を残そうと、有志が



やわらんで

益があると観光客り、長さ二・五メートル、大サイズだ。十四人が五時間ほせると、「十年ぐらほしい。次は参加できないが」。いたづら